

日本最大の犯罪組織である公安警察と公調を告発する！

## 公安のストーカー活動



公安の全面情報開示をすれば犯罪組織と変わらない実態が明らかになります。次の犠牲者はあなたです。公安(公安警察と公安調査庁)は国家権力による犯罪者集団です。

「佐野利昌氏のブログより」

### 関向 【公安のストーカー活動】

- 1 公安のやることは関わることのない第三者からみれば一見実にくだらないうように思われるだろう。そういうくだらないうことを考え協力者に指示して実行させ、**証拠**を掴まれないよう、協力者たちに**証言**をさせないように自らはコソコソと陰に隠れて不当で**理不尽**な干渉をしてくるのである。どこに行っても何をしようとも、つまり私の生活のすべての場面で法的に告訴されないよう巧妙に積極的に干渉し邪魔しにかかるのである。

これから紹介するのは「**公安はここまでやるのか**」というゲスでくだらないう工作活動(しかし**意味**や**意図**があるからやるのであって公安と私札幌市北区在住のS・Tという当事者にとっては**実は**重要なことで決してくだらなくはないのだ。)の話である。

公安(**お笑い公安調査庁**や公安警察)がスパイ映画や小説のようなカッコいい工作活動に日夜勤しんでいると思ったら大間違いである。

国家権力をバックにして、それを悪用している公安「ヨタ者組織」はわかりやすく言うと、膨大な税金の無駄遣いをしている悪党グループで構成されている国家公認の単なる「国営ヨタ者犯罪組織」なのである。

国民が皆公安のやっていることを承認しているかはわからないが、ほとんどのジャーナリストたちは公安がやっている事を黙認しており、公安の監視活動の「公安にとっての都合の悪い実態」にメスを入れることもなく「組織的なストーカー行為を主導している実態」などまちがっても世間に知らせることはないのである。

公安が「危険人物」とお墨付きを与えて監視活動をしているのだからその活動が概ね正しく間違ったことはやっていないというわけだ。

公安の活動情報が全面的に公開されたことは一度もなく「捜査上の秘密」を盾に実際には何をやっているかわからない機関なのに徹底的に検証し、公開させる気もまったくないようである。私のことはすでに知っているジャーナリストさんも一部いるかも。でも「公安が間違っている」などとは口が裂けても言えない。

公安によるもっともらしい一方的な私の情報が「国家権力を監視している」らしいジャーナリストさんに届いているかも。

「高を辞職させられた後、生活のため様々な仕事をした。定職にはつかずほとんどアルバイトである。1990年前後に石狩湾新港地区の工業団地のS機材にアルバイトで1年ほどプレスや鋼材の切断、加工の仕事をしたことがある。

求人誌を見て電話で事前に連絡して面接に向かうのだが、目的地の途中の路肩にそれらしい乗用車が既に待機しているのである。おそらく会社には無線で指示したと思われる。私の行動の情報をどうやって得たのか。車で尾行したのか、電話を盗聴したのかはわからないがとにかく24時間体制で監視されているのである。

当時は行き先などの大事な話は公衆電話を利用していたのだが、なぜか尾行をかわしたことは一度もなかった。裏をかいたつもりでも撒いたことはほとんどなく、20年前に海釣りを兼ねて北海道内中走り回っても無駄であった。

私の妻も私ほどではないが尾行や待ち伏せなどをされている。

考えすぎや偶然の可能性を**数えきれないほど**妻に問いただしているのだが、やはり同じようなことをされているようである。

これは**体験**した者にしかわからない、たとえば「**不自然さ**」で気付くのである。どういう不自然さかというところまた説明は難しく何千回と経験した者には容易にわかることなのである。

やっけても「やっけていない」と平然と**嘘をつく連中**が相手なので認めさせたり証拠をつかむのは困難なのだが。

私はかなり物事には**疑り深く**慎重なほうで妻をたしなめる側なのだが、私よりもはるかに**人望**は厚いし世間的にも**信用**されている人間である。ただし今まで「組織的なストーリー」の件に関しては友人、知人に**他言**したことはほとんどない。

「言っても**誰も信じないだろう**」がその理由であり、人とうまくやっていく生活の知恵でもあった。私ほどはやられてはいないと**楽天的**な性格のせいもあるかもしれない。

その妻が言うには、車中の会話が聞かれていく先々で**待機隊、待ち伏せ隊**がいるというのだ。私はその**根拠**を厳しく問い詰めるのだが、はっきりと具体的な証拠をあげるのは困難である。

しかし待ち伏せしている奴らの表情や雰囲気、停車している状況などで、やられた者なら誰でもある程度わかるようになるものである。さすがに尾行等にはウンザリして、30年も前から車中では行き先などは、**メモ書き**で済ますのだが盗聴の**可能性**は大いにあると思っている。

車内の盗聴が技術的にどの程度可能なのか、公安が都合よく独占して利用する、世間に知られてはまずい**先端技術**は隠蔽されているので何とも言えないところである。



いまだに**探偵の飯のタネ**である 40 年以上も前から不思議なことになぜかほとんど**進化しない**少なくとも**秋葉原**の「はんかくさい」コンセントやペン型のオモチャではないことは確かである。

PC も携帯もない 25 年以上も前の話をしているのだが当時から得体の知れない先端技術を使っていたのかもしれない。今なら何でも可能だろう。

電電公社時代の NTT から聞いた話では、基本的に**送信部分**と**受信部分**があれば盗聴はできるそうである。電話機を想定した話だったのだが、当時は意味がよくわかっていなかった。その意味がわかったのは 10 年ぐらいしてからである。

ホントのところは私もわからないがね。盗聴やら尾行などと言っている私達はどうかやら 30 年間**夫婦共々**「**統合失調症**」の「**被害妄想**」の病気だったようである。

単純に大勢の協力者の**動員**か、あるいは車に発信器が取り付けられている可能性もあるのだが、ディーラーや**整備会社**はひき逃げ事件や車両が絡んだ事件などの**捜査や調査**で警察とは**ツーカー**の関係である。

素人が車を分解して探し出すのは難しく、特に公安が関係した場合何でもアリで、経済的に余裕のない個人がやれることなど限られ、無駄な結果に終わることは明らかである。

たとえば非常に「**危険な人物**」に関する協力依頼を「たとえ**大嘘でも**」公安警察から**頼まれて断る会社**や人間はいないだろう。こと公安に関しては事前に手をまわされているので民間会社を通しての「**証拠の確保**」はほぼ無理であろう。

私は犯罪を犯したことも危険なことを言ったこともないし、後ろ指をさされるようなこともしたことはない。協力者ではなく**堂々と**公安職員本人や捜査権のある**公安警官**本人に**監視**される分には一向にかまわない。

しかしこれはこれで問題ではあるのだが捜査権や権限のある公安職員が**直接**監視活動をするなら**個人的には**かまわない。私は犯罪行為も、危険な行為をするそぶりすらしたこともない。

私、札幌市北区在住 S・T は逃げも隠れもせず普通に生きているのに、公安側が協力者を**狡猾**に利用してあらゆる場面で干渉してくるのであり、私の生活を意図的に**邪魔**をして**破壊**してきたのである。公安が活動する為に**都合のいいよう**に理由を創りでっちあげてる



ことなのだが、組織的なストーカーがまだ法的に規制できないので今のところ「やりたい放題」である。

自分達が間違ったことをやっていないという自信があるなら**公安本人**が堂々と活動するはずだが組織的なストーカー活動においては協力者の陰に隠れてコソコソとしているのである。間違ったことをしているので**堂々と**顔を出せないのである。又、万一の場合**突発的**に刺されるのは**捨石**として利用している協力者なので隠れている公安職員たちは安心安全なのである。



保身に汲々としている気の小さい**役人根性**が透けて見えるので、自分達の**立場を守る**ためならなんでもやる公安調査庁がストーカーの主導者かもね。朝鮮総連の件ではトップがああ体たらくの元長官の緒方のような**まぬけ**もいるくらいだから。

みんな緊張感のない**緩んだ**フンドシ状態のはず。だから、潤沢な血税を使って**目を付けた**絶好のカモ相手に「**暇人のお遊び**」を30年以上にも亘ってやれるのだろう。もしも公安調査庁のほうの**公安**が調査活動と称して犯罪活動をしているなら、捜査権のあるヨタ者公安警察よりも問題だろう。

個人が**私的**に行う「ストーカー」は非常にわかりやすく告訴しやすい、たとえば結果として**殺されよう**とも私から見れば**簡単**で**単純**な構図の事案である。

**同じ**人物が付きまとうので訴えて刑事事件にするのも**簡単**である。同じ「ストーカー」の名前がつけられているが規模と悪質さには**雲泥**の差がある。公的機関がターゲットに死

ぬまでまとわりつく「組織的なストーカー」は**国家権力**がその強大な力を悪用して**無力で無防備**な標的に執拗に干渉してくるので殺されることもある**個人的なストーカー行為**よりも遥かに陰湿で性質(たち)が悪いのである。

カモにされた被害者は**精神的にほぼなぶり殺し**の状態にされるだろう。

私は**今たまたま**生きているだけにすぎない。公安による組織的なストーカーの**本当の残酷さ**を知っているのは私と公安の担当者だけである。**おめでたい協力者たち**は裏の本当の意味を知らないで協力しているのである。私が再三言っている「想像力が欠如している」と指摘する**所以**である。

話が前後したり、とりとめもなく文脈が繋がらず読みづらいと思うがなにぶん古い話で私の文章能力の限界なので勘弁してもらおう。

石狩のS機材に勤務して数日後の朝S機材の横の**駐車場**で車を降りるとそのタイミングに合わせて裏の他社(CNP)の方から「ナンチャン」こと「**南原**」にそっくりな作業服姿の若い男がわざわざ私の側を通過して挨拶をするのである。「**がんもどき**」のような**ツラの肌**に特徴のある盛り上がった**両頬**、「ナンチャン」にこんなにも似ている人間もいるんだなと思ったものだ。会ったのはこの一度だけである。

すると工場に入ると関向君がすぐによってきて言うには、「ナンチャンに似た男に遭わなかったか」と**わざわざ彼の方から**言ってきたのだ。おかしな話だが仕組まれた**台本**どうりなので**見てもいないのに**彼の方が既に知っているというわけだ。

名前など知らないがその「**南原**」そっくりさんは彼の友人で裏のCNPに勤めているそうだ。公安はホントとウソを織り交ぜて巧妙に工作するのだが**目的を達成する為**ならどうでもいいことで、要するに何でもアリということだ。

公安の脳みそは硬化しており「**正義**」や「**良心**」などという青臭い単語も入る余地はない。こういうこともあった。年末の工場内の大掃除の時に作業服の**胸ポケット**に従業員が全員「**白い厚紙**」を半分ほど見えるようにいれているのである。そして朝礼の時に言うには、掃除の際工場の改善のために気のついたことをその**白紙**にメモをしろというのだ。

胸ポケットに白い厚紙をわざわざ入れる必然性などないので、不自然な雰囲気だったのでよく憶えている。私は数ヶ月前に既に彼らの魂胆とキーワードには気付いていたので吐き捨てるように小声で呟いたものである。「ようやるわ、この暇人どもが」この段階までくると公安の演出、演技指導も大詰めである。

「名札」「白」がキーワードなのだが、当時はもっとたくさんの関連することがあり私が単に気付いていなかっただけで白口に関係のある演出は相当あったはずである。しかしこれだけで「公安の本当の手口」と「その意図」を説明するには十分である。

裏のCNP(株)は定年退職後の元教頭の白口が営業かなんかで勤めている会社である。

詳しい日時や名前は思い出せないのだが、こんな猿芝居もあった。私が鋼材を切断作業する正面の大きな窓の向こうは、CNPの玄関になっている。実際には踏み台か機械のローラーの上には上がらなければ玄関での人の出入りは見えないのである。

舞台も終盤になったある日、サイレンが鳴り救急車が窓の向こうにいるらしいのである。

幹部社員で頭の禿げたスキーの指導員がおそらく先生役のつもりなのだろう。その時たしか結婚したてのはずだがそのことも含めての仄めかしかもしれないが。

「そんなことまで気にしていたらノイローゼになってしまうだろ。」

読者のこの意見には私も賛成である。しかしだ、気にしなければ気にするように徹底して綿密に仕組むのが公安というヨタ者猿組織なのだ。

この※若禿げのスキーの先生が私のそばに来て「見ろ見ろ」というのだ。私にはどうでもいいことなので聞き流していたのだが、見なくなったら見るだろうしそんなことまで強制される筋合いではない。実はそのとき既にこういうような形でいずれやられるのはわかっていたので、私は極めて冷静だったのだ。

そしたら機嫌が悪くなったこの若ハゲが血相をかえて機械の上にあがってであろうことか私の腕をつかみ遮二無二ひっぱりあげてCNPの玄関先を指差して言うのである「見ろ救急車だ」。当たり前だ。

一世一代の大仕事の最後の詰めだからハゲも必死なのである。私が白口に気づかなければすべて水の泡になると思ったようである。すでに何ヶ月も前に薄々わかっていたのに。

「ナンチャン」で気がついたが、気付いてないふりをして普通に働いていたのである。

※注（私は薄毛の人やヅラの人を差別したことはなく、私もヅラは**いいもの**だと肯定的に考えています。今思い出しても怒りがおさまらず興奮してしまいました。）

見ると**首**が少し曲がらないワイシャツ姿の**元教頭**の**白口**が救急車を玄関先に誘導していた。実はこの記事の核心はこの一行に集約されているのである。

**これを見せるため**に大掛かりに猿芝居をやっていたのだから。

この白口について簡単に説明すると、不愉快な記憶しかないのだが、挙げたくもなかった私の結婚式の際に、私が何度も断ったのに強引に私に**恩を売る**ように白い**マイクロバス**を手配したのだが、白い救急車はそのことを表しているのだろう。

当時私に「**失踪**」の話もしていたのだが、これ以上は細かすぎるのでやめる。



試験には受かったもののもともとは**何もない貧乏な**私が僻地に赴任したことから始まったことでもある。好奇の目にさらされ気後れした私は力のある者に頼りそれを利用し結局は最後に私が嵌められて公安に利用されたのである。

しかしまさか死ぬまで公安のヨタ者たちに組織的にストーカーをやられるとは思わなかったし、ここまでやられる理由もない。

この人物は教頭のまま退職したはずであるがくわしいことは知らない。通常は**どんな**教頭もまじめにレールに乗ってれば少なくとも小規模校の校長で**定年**を迎えるはずである。当時の状況を最も詳しく知っているのは**北教組**の窓口役で幹部だったM山氏とS田校長なのだが公に公開するかたちですべてを語る義務があるはずだ。当時私が**何を言い何を行ったか**そしてその**対抗措置**として私に何を行ったか、すべてを自発的に証言する**義務**が



あるはずだ。公安を通してではなく、直接に世の中に説明しなければならないはずである（まだ健康に生きていればだが）。そしてそれ以降のことは私が責任を持って説明し公開する。

S 機材で面接をした幹部はなぜか「S 田」なのだがこれは本名で偽名ではないだろう。明らかに意図的なものはあるだろうが、これ以上は被害妄想になるのでやめる。病氣と真実は紙一重で組織的なストーリーはそこを上手く利用しているのである。

S 田校長こそが私が管理職の言うこときく事務員だったのをいいことに保身のために私を利用した責任者ではないのかという思いがあるのだが、当時の先生方もこれは否定しないはずだ（本音を正直に語ってくれればだが）。どこの情報なのか事実は全く逆なのにこの校長と信頼関係があるように思われて心外なのである。

当時「あの校長はだめだ」と聞かされていたので見切りをつけ、八方ふさがりの私は若気の至りで人事異動に勝手に突っ走ってしまったのである。

体調も悪くなりT 高で窮地に陥っているときなどはT 高側の依頼でノコノコ訪問され、「勘違いでおめでとうこの校長」には当時、はらわたの煮えくりかえる思いであった。

パトカーや救急車などの公的な車両が意図的に簡単に手配できるのは私も何度か見てきた。

ブログを始めたころに覆面やミニパト、普通のパト全部で 10 台前後が集まり野次馬も相当集まり私の隣の中島から規制線が張られ近所中が騒然となり大騒ぎになったことがある。不審な点がいくつもあるのだが、おおごとなのになぜか地方版にも載らない数十分で終わったこの出来事は、私は規制線に沿っている「中島」「渡辺」「宮川」といった協力者たちへのメッセージとパフォーマンスの可能性を考えたものである。たとえば、警察はここまでできるのだとか、道警が付いているから安心しろとか。

一つ書き忘れたが、私の出入りにあわせての中島のあまりのしつこさに私の玄関先にツルハシを置いて警官にチェックされたことがあった。かなり距離もあって、しかも夜中にさりげなくそっと置いといただけなのに。

遠くから見ただけで笹谷と中島が通報したのだが、やましいことをやっていないなら、仕返しされるような身に覚えがないなら全く気にする必要はないはずである。

組織的なストーカーではどちらが被害者かわからなくなり、場合によっては**加害者**にされてしまうのである。

「引越しの**騒音おばさん**」の事件を思い出してしまうのだが、**公平**に両方の状況を検証しないのが現在の**マスコミ**の姿勢でもある。あのおばさんが睨みつけ叫んでいた**カメラの向こう**にどんな真実があったのか。

ネット上では、障害のある子供がいて苦労していた「騒音おばさん」が創価の入信の誘いを断ったのがそもそもの発端だともいわれている。私もどちらかが**真実**かわからないがね。

特に公安が絡む場合は**巧妙**に仕組まれたり嵌められるので、「普通の**常識**」はまったく通用しない。**パト**の「**夜の集会**」はツルハシの件で警官が現れた数日後のことである。ホントのところはわからないがね。

町内での**協力者たちは**、ほとんどパソコンやネットなどやらないので、自分のやっていることの本当の意味がわからないのである。そのような**無知な人間**が権威や権力を疑うことなく公安の言うことを鵜呑みにしてしまうようだ。

話がかなり関向から逸れてしまった。救急車などは**タクシーがわり**に出動させてるバカ者もいるくらいで、どうにでもできるのである。これ以上は触れないが。

S 機材で私は協力者たちが公安のいいなりになってやっていることが、特に**指導者**として社内外で信用されているであろう**ハゲ**がやったことなどは**おぞましく**て反吐が出そうなのだが、これが「**国家権力の威力**」というものなのだろう。

ハゲの件に限らず私が会社側の様々な「演出」をあえて気にせずに真面目に働いていたことや私になら**落ち度**もなく最初からの「**いいがかり**」であること、面接をはじめとして勤務の初日から仕組まれたことだったのはこの**S 機材側**がもっともよくわかっているはずである。組織的なストーカーを構成する要件である「**口裏合わせの嘘**」をつかなければの話であるが。



真面目に働こうが、職場の人間と仲良くやろうが最初から公安にレッテルを貼られた「**公安のカモ**」は都合よく餌食になり「**公安の仕事づくり**」に協力者共々まんまと利用されるのである。公安にとってはターゲットは**最初から**大げさにでっち上げたレッテルどおりの人物でなければならない。間違っても**善良**な好人物であってはこまるわけで「**公安のお仕事**」がしやすい人物に仕立て上げるため、想像力の欠如した協力者に人間関係をぶち壊す**危険性**を吹聴してまわり協力させて工作活動が続けるわけである。

真面目に働いていても、ヤクザ者がまとわりついて因縁をつけるように様々な巧妙ないやがらせをはじめるのである。

**国家権力**を隠れ蓑にしながらなおかつ警察手帳や「公安」という**権威**を最大限に悪用し、非難されたり違法性を問われないように陰に隠れて「**下請け、孫請け**の協力者たち」を使い「偶然のフリ」をして様々な干渉を狡猾にやるのである。干渉と言えば聞こえはいいが、要は**殺されても**文句の言えないような**悪質で執拗な「いやがらせ」**であり、やっかいなことにこの感情は**体験者**にしかわからないのである。

協力者も公安に**利用されている**ことになるのだが、気付いてやめる協力者は少ない。協力者たちも「たいしたことではない」と考えて安易に協力するようである。

なによりも公安という最強の国家権力がバックにいたので自信満々で協力するのである。社会に埋没してあまり人から褒められたことのないような「問題意識」が希薄でレベルの低い人間がおだてられて目を輝かせて協力するようである。

別のタイプは、数は少ないのだが社会的な立場にある人物が巧妙な嘘を吹きこまれて勘違いの義務感や私よりも「経済的にも社会的にも上である」というプライドを鼻にかけて協力するようである。

性愛の大家の友人やアガタ薬局のアガタさんもこのタイプかもね。

物心両面で不自由なく、問題意識も持ち人の心の痛みを本当に考えることのできる人は協力者になることはない。

このうちどれかが欠けた場合に愚かな協力者となり公安の犬に成下がるのである。協力者がたとえストーカー行為をやめたとしてもそれは「己」のためにやめるのであって決して「被害者」のことを考えてやめるわけではない。

刺されて「自分が被害者になりたくない」のがその理由である。実は危険で重大な人権蹂躪に加担しているのだという、そのことに気付く協力者はほとんどいない。

被害者に対して第三者は皆思うだろう「そんなこと大したことではない」と。「組織的なストーカー」「集団ストーカー」の本当の実態を体験したことのない部外者がそう思うのも無理ない。実際には殺されても弁解の余地のないことをやっているのだが、組織的なストーカーの被害者にしか理解不能な感情なのである。

あるとき私は全く偶然にある幹部社員が気にしていて触れられたくないらしい事を知らずに話の流れの中で触れてしまったのだが、激怒した仲間と共に露骨ないやがらせや、口汚い罵りやほのめかしをされたことがあった。

たった一度の、しかも意図的に言ったわけでもないのに。しかもたった一度である。

私はその数十倍ものことをこの会社でやられているのに。この社員であり協力者でもあるこの連中のこの虫のよさは何なんだ。

逆の立場になったときの私の渾身の怒りをわかっていただけたでしょうか。

たった一度でも怒るようなことを「被害者」は何百回、何千回とやられているのです。公安がやっている執拗な組織的なストーカー活動とはそういうことなのである。



公安の主導するストーカー行為(関連付け、仄めかし、猿芝居)はきわめて執拗である。気にしなければ気にするようにあらゆる手立てを画策するのである。それでも効き目がなければ住居侵入や車内侵入をやり、当人を動揺させるような直接的な犯罪をしかけてくるのである。

窃盗目的ではなく絶対に証拠を残さないように(入ったことを示す証拠にならない痕跡はのこす。)まわりに手配し用意周到に巧妙狡猾に実行するので本物の泥棒よりもはるかに性質(たち)が悪いのである。

防犯対策を云々する人もいると思うが、通常の泥棒対策なら極めて簡単のことである。しかしあらゆる手を尽くしてやる気でやってくる暇人であり証拠や工作のプロでもある公安に関しては、全て無駄に終わる可能性が高いので高額な防犯システムなど経済的にも無理な話である。

そもそも問題はそういうことではないのだが、最新のハイテク防犯対策や「戸締り」を言う「あんぼんたん」もいるので閉口してしまうのです。

アナログ的な古いスタイルのストーカー行為だけでも相当悪質で「八つ裂き」にされても仕方のないほどの犯罪行為なのであるが、現在の法律ではどうすることもできないのが現状である。

実はもっと酷いハイテク機器を使った犯罪を証拠が残らないよう、とれないように行っているのだが、このことはいずれ改めて書く。この目に見えず音として聞こえず、にわかには誰も信じないような、電磁波のように証拠がほとんど取れない犯罪を陰に隠れて専門技術を悪用した最先端の機器を駆使して行なっている。実は公安犯罪の「最も悪質な核心部分」でもあるのだ。

私が公安を犯罪組織と断定し、ろくでもないヤクザ者のヨタ者集団と呼ぶ理由のひとつでもある。

「私に偶然のふりをして出会わせたことが、それがどうした。」と思われる方は、多額の税金で「そのくだらないことを協力者たちにやらせている」公務員である「公安のかた」にもぜひ同じ質問をしてみてください。「それがどうした」と。

公安がわざわざこんなくだらないことをやっているのは「やる意味」があるからやっているものであり、そのうえ「効果」があるからやるのである。

表面上は些細なくくだらないことに見えても、実は深い悪質な意味がある。



公安が協力者に、わざわざやらせる**その意味**もないならば、**効果**もないならば、組織的なストーカー行為を最初から**やる必要は全くない**のである。

S機材での「偶然」という**点**の目的や意味が明らかになり、点と点が繋がって**線**になり舞台の最終章でその**本来の意図**が本人に明かされるのである。公安の『点と線』は名作に比べてかなりレベルは低く**低俗**で**下品**である。しかし「公安」は国家権力を悪用し、強大な権力を背景に**世間を欺き**陰に隠れて誰も信じないよ

うな犯罪を実行している。まさに「**事実**は小説よりも奇なり」を組織的なストーカーで実践しているのである。

猿芝居が佳境にはいり最後に舞台の幕が下りる前に私を働かせないようにするために執拗で露骨ないやがらせがはじまるのである。でっちあげや**いわれのない中傷**や嘘で追い出しにかかるのである。

猿芝居や**関連した仄めかし**が始まった時点でもはや普通に勤務する事は不可能である。最初から無理な様相を呈しているのだが**生活**がかかっている所以我慢をし、さらに無理をして**頑張る**しかないのだが、公安が関わった場合はそういう**きれいごと**が通用しない状況にされるのである。**意識しない**よう仕事に集中しようとすれば、強引にいやでも**意識させるような状況**を創り上げるのである。それでもがんばれば住居侵入や車内侵入をやって**動揺**をさせたり、精神的に**プレッシャー**をかけて潰しにかかるのだが、たいていここらあたりで被害者は精神的にも体も精も根も尽き果て**事件を起こす前**に退場し、すべてが終わるようである。

それでも「**しぶとい奴だ**」の陰口にもめげずにもっとがんばれば、**最終兵器**「苦いコーヒー」の登場ということになるのである。

公安のやっている**執拗な**組織的なストーカー活動とはそういうことなのである。

組織的なストーカー活動には公的機関が主導的に関与しているのだが、さて公安部と公安調査庁のどちらだろうか？ 私は公安部が主導的におこなっているとずっと思っていたが最近考えることがあって、公安調査庁の可能性も浮上してきた。

公安調査庁のような**無能な**公安機関だから、住所も**定まり**素性もはっきりして**人畜無害**で明らかに**孤立**していてまとわりつきやすいので**絶好のカモ**にされたのではないか。電話が盗聴されているのは電電公社時代からのことで、これを出来るのは公安警察だと思っていた。

公安調査庁を示唆する**協力者**のコメントに攪乱されているのだが、90年代に函館であった共産党と公安調査庁の問題を国会中継で偶然聴いた時、巷で言われているのと違う**積極的な活動ぶり**にこの連中ならやるかもしれないと思った時期があった。しかしやはりすべてにおいて制約が多い法務省の**外局**にすぎない**一行政機関**がここまでできるのだろうかの思いでうやむやになってしまった。

やはり無理があると思っていたら最近聞いたところによると公安調査庁は**日本版 CIA**をめざしているんだと。お笑い公安調査庁かと思ったらどうやら本気らしい。

道公安調査局でなければ道警の公安部が関わっていることになるのだが、両方のヤクザ組織が**持ち場持ち場**で何らかの関与をしているかもしれない。

確実に言えることは小さな**一民間会社**が主導して私の情報を収集することは**不可能**であり**情報**を集める**理由も必要**も全くなく、私とまったく縁もゆかりもない民間の小さな会社が私に関連した個人的なことをネタに「ほめかし行為」や「猿芝居」をする**必要もまったくくない**のである。

私に関連した「本人」や「そっくりさん」をいったいどんな組織が手配できるのか？そしてこれほど大掛かりなことを、勤めた最初か



ら、なんら**接点のない**民間会社がやる**理由**がどこにあるのか。一民間会社が**単独**でやる**必然性**もなくそして**情報収集**も不可能なことを、ではいったいどこが指示できるのか。もうこれ以上の**説明は不要**だろう。

## [公安の工作活動]

2 職場内でのいじめや、いやがらせは程度の差こそあれ民間会社でも公務員でも珍しくないだろう。しかし私の考える集団ストーカーとは別物であり、それは会社内で人間関係が**うまくいってない場合**の「いやがらせ、いじめ」にすぎない。

私に対して行われている組織的なストーカーは公安のように 365 日調査活動、監視活動、工作活動、スパイ活動と称して(**本当は何をやっているかその実態は不明である**)専門にそればかりやっているヨタ者**暇人**機関だからできることなのである。

公安はまったく関与する必要もない人畜無害な私 **S・T**にまわりついて膨大な**時間**と**人員**と多額の**税金**を **30**年以上にわたって浪費し現在もこれからも**膨大で無駄なエネルギー**を費やすのである。

バカ組織につける薬はないといたいところだが、公安のバカどもは**確信犯**なのでわかってやっているのである。

最も**やりやすい**人物にまわりついて、最も**楽**でやり易い仕事をやり、これまた公安に輪をかけておめでたい想像力の欠如した**協力者**を利用して、「公安は**こんなに**仕事をしているぞ。」と、**世間向け**に協力者たちを通しての**宣伝活動**も**兼ねて**活動しているのである。

「関向」という苗字はあまりないと思うのだが、当時私も初めて聞いた苗字である。世の中には、これより変わった苗字は山ほどあるので別に意識もせず違和感を感じることもなくそのときは気にもしていなかった。

K 小当時私は二人の教頭が上司であった。異動したくて内部告発じみたことをしたときのシベリア帰りの教頭の苗字は**白口**である。今になって考えると「内部告発」に対抗して公安を利用した「公益通報制度」で逆に私の方が嵌められたのかもしれない。その時の教頭である。人望がないこの教頭、たしか校長になれなかったはずである。



当時「退職したら CNP という会社に誘われている」話を後になって思い出したのだが、この社長もたしかシベリアの抑留仲間のはずである。

小学校など事務室のない小規模校では事務職員と教頭は職員室内で机がすぐ近くの場合が多く、私の場合白口教頭は私の席の向かいであった。

もうおわかりだろう。「関向」が「席向い」のことであることを。

すべてはK小当時私の席の向かいにいた元教頭白口を私に見せるため、出会わせるために仕組まれたことだったのである。席の向いの白旗を意識させるために「南原」まで持ち出す。この会社を利用して公安が仕組み指導した、くだらないが実に大掛かりなわかりやすい工作活動である。

最も重要なキーワードである「関向」君をほとんど私と関わるように作業上も社内的にも親しくなるよう仕向け、常に意識させるのである。何ら意図的な策略がなければ若い彼と私は冗談を言い合う「マブダチ」だったはずである。

勤めて数カ月してパートのおばちゃんが「セキムカイ」君を違う苗字で呼んだのだが、私はよく聞きとれず気にもしていなかったのにそのおばちゃん私に感づかれたと思ったようである。あわててわざわざ私の前で言訳がましく「関向君は名前が二つあるの不思議でしょ。」だと。当人は顔を少し紅くして気まずそうにしていた。

そのときはじめて偽名だと気付いたのだが、私には本名でも偽名でもどうでもいいことで要は公安の指導のもとに私に会いたくもない人物を私に見せるために手の込んだ演出で大掛かりに仕掛けていたのである。白口を私が特定できるように様々な仄めかしや仕掛けで工場は猿芝居の舞台になるのである。

公安はよく私に関連した人物の「そっくりさん」を私と出会うよう画策し配置するのが本物の当人も協力者として動員するので紛らわしいときがある。性愛の大家の友人K氏もアガタも本人であった。

しかし本物でもそっくりさんでも偶然ではなく意図的に動員されたことは不自然な動作等ですぐわかるものだ。もっとも公安側としては私に気付いてもらわなければ手配した甲斐がないので、必ず気付かせるようにするのである。その意味では私は既に公安の術中に嵌ってしまっているのである。

さすがにこんな愚かな時間の無駄を民間会社や宗教団体が**単独**でもやることも不可能だしここまでやる**必要**もまったくないのである。たとえ**大企業**でもここまでの**暇人組織**は有り得ないだろう。後で述べるが、マツダ殺傷事件なども何が原因か推察できるはずだ。

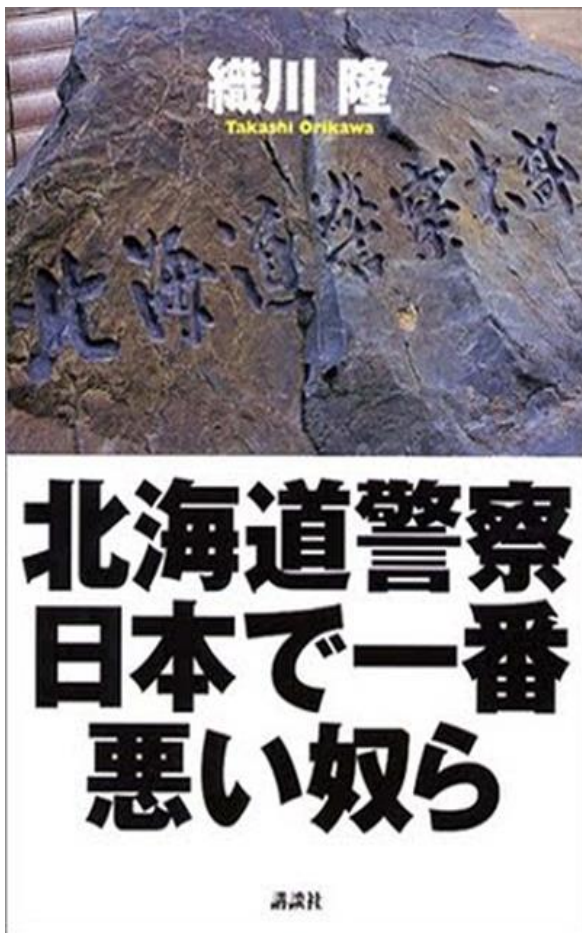
「**南原**」のそっくりさんを見つけ出すのも簡単ではないだろう。

朝のいつときとはいえ引っ張り出して事前の打ち合わせや**段取り**も大変だと思うし、裏にいる CNP の**白口**と気付かせるための意識付けや偽名をはじめ様々な偶然の仕掛けを仕込むのも相当な**労力**だろう。工作の専門機関とはいえこんなことに**カネ**と**時間**と**人員**を費やす**暇人**機関の飽くなき**エネルギー**には私もただただ**脱帽**である。あいた口もふさがらずアゴがはずれそうである。

「**暇人**」と月並みな表現しかできない理由がわかっていただけだろうか。

文字通り頭がスッカスカで**からっぽ**の暇人なのである。そうでなければこんなことできるわけがない。これが公安(公安調査庁、公安警察)の**実態**であり**裏の顔**である。

公安主導の組織的なストーカー**活動**とはそういうことなのである。



私の考えすぎや一方的な思いこみとすれば、一民間会社において**白口**にまつわるこれら登場人物たちや関連**事項**が偶然に私の前に現れる確率はどれほどだろうか。

偶然とすれば天文学的な確率の**偶然**だと思うのだが、はたして**一連の事**を偶然と思う人は何人いるだろうか。

これが「**集団ストーカー**」「**組織的なストーカー**」といわれている、現在の法律では罰する事ができない犯罪の**基本的な手口のひとつ**であり、**集団ストーカー**は決して病気の産物などではなく、**厳然として**実際に行われていることである。

ただしネット上での被害者ブログはほとんど本物ではない可能性が高い。かつて7割近くが

偽装ブログで本物ではないと指摘したスタッフがいた。私は9割以上とみていたがそれ以上かもしれない。

私がやむを得ずブログを始めたころ200以上の集団ストーカー関連のブログのタイトルとURLを網羅したサイトがあったのだが1年以上前から行方不明になっているどこかにあるのかね。

たしか、私のブログも知らぬ間に載せられていたのだが、消さなければならない何か理由があるのかね。いずれ詳細に検証するのに便利だと思っていたのだが。もし私の勘違いでどこかにあるのならおしえてほしい。待ってます。

自作自演で病気に思わせるようにブログ活動しているいる者や、社内での人間関係の悪化による「いやがらせ」や狭い地域限定(たとえば町内会)のトラブルによる嫌がらせを集団ストーカーと勘違いしているケースや、わかっているのに故意に騒いでいるケースもある。

2010年のマツダ本社工場連続殺傷事件では1人が死亡し11人が重軽傷を負った。

被疑者の供述では同僚たちから「集団ストーカー」行為をされていたとなっているが、会社内でのいじめや、いやがらせと本物の「集団ストーカー」は全く別物である。

本人は精神的に追い込まれて事件を起こしたかもしれないが「集団ストーカー」ではない。社内での同僚たちによる嫌がらせは、単なる同僚達による「いじめ」である。被害者を死に至らせる学校内でのいじめと同じケースである。

もし被疑者が工場以外のたとえば秋葉原等に出かけても彼に関連した事を意図的に言われたり大掛かりにやられたとしたら組織的、集団ストーカーだろうが、そういう話も聞かないし、工場内限定のいじめの可能性が高い。

しかし本当に組織的なストーカー行為を「遠隔地でもやられてる」と言った瞬間、通常は「病气」で片づけられるにちがいない。

同僚たちはいじめを否定しているがホントのところはわからない。小さいいやがらせを本人が勘違いしたかもしれないし、ノイローゼ状態が爆発してキレたのかもしれない。これは、これで問題ではあるが「集団ストーカー」という言葉が使われてしまい世間に誤解されてしまったようである。

「集団・・・」という名称は私の**体験**では違和感があり私は「組織的なストーカー」としている。**狭い限定的な場所**で寄ってたかって集団で「いじめる」ような印象をうけるだろう。私に関連して行われているストーカー活動は事前に連絡や指示をうけたそれぞれ違う協力者たちがどこに行っても出現し、**時も場所**も選ばないのである。

加害者が違うせいなのか公安の場合は指揮や指示が**組織立っている**ので「組織的なストーカー」としたのである。この悪質な犯罪を世間に知らしめて**断罪するいいアイデア**(名称を含め)があるなら、私はどんなことでも受け入れるつもりだ。

たしか事件の公判の時のNHKのニュース報道では「容疑者は集団ストーカーされてると**意味不明**なことを言い・・・」だったと記憶しているが。

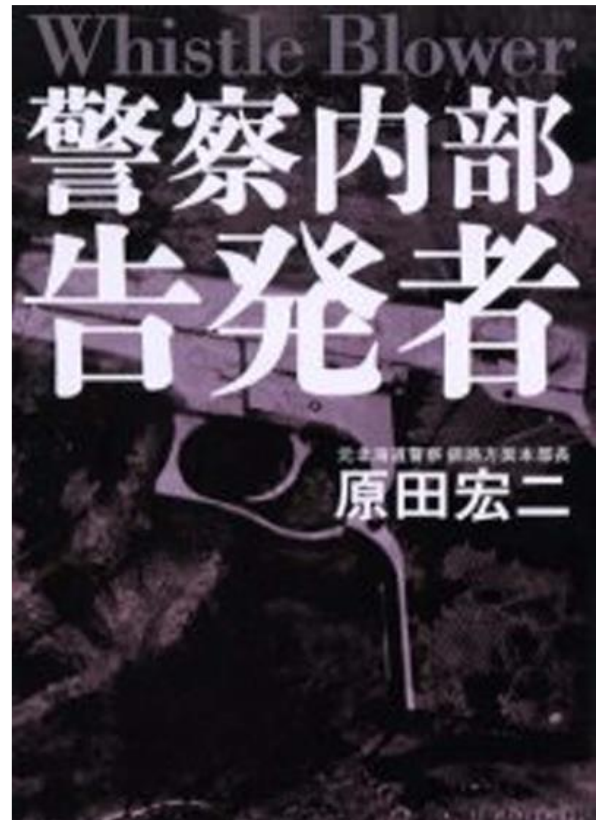
つまり「**集団ストーカー**」とは「**意味不明なこと**」が現在の日本のメディアの認識である。

平たく言えば集団ストーカーを口にするものは「**頭のおかしな人間**」ということなのだろう。集団ストーカーが「思考盗聴」や「電磁波攻撃」や「奥歯に受信機」では受け入れられるはずもないのはサルでもわかる。私はすべてを切り捨てているわけではない。

相当の**事実**と**嘘**が入り混じっており、**創価の自作自演者**や意図的な偽物も多数活動していて、一網打尽の様相を呈しているこの団体の**本当の被害者**が間違った方向に行く可能性もある。本人が考えて参加しているのだから余計なお世話だろうが。

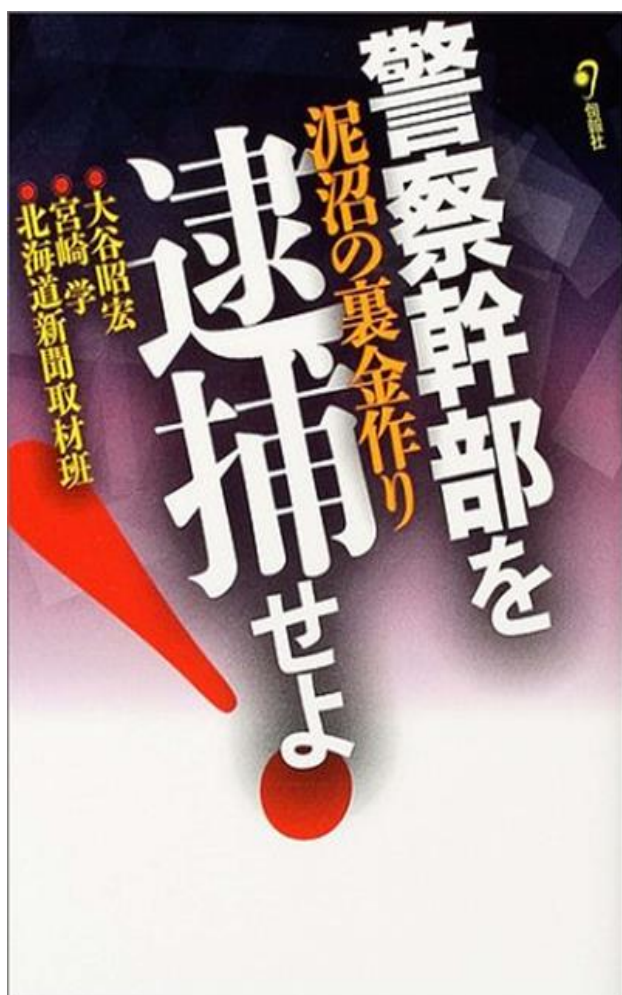
**個別**のストーカーも**組織的**なストーカーも主導的な役割をしている「**加害者**」は**必ず**存在します。そうでなければストーカー被害は単なる「**病気の産物**」であり、被害妄想です。

「集団ストーカー」を口にする被害者を**病人**にするのも加害者側の思惑でもあり**目的**なのです。**病人**として社会的に抹殺すれば集団ストーカー、組織的なストーカーはこの世に存在しないというわけです。





それで実際に集団ストーカーを行なう団体は、病気のフリをした自作自演者を使って「集団ストーカー」が「病気」であることを世間に拡散しているのである。



加害者を特定できなければ問題の解決は100年たっても無理である。延々と「UF0」や「幽霊」を追いかけているオカルトと同じである。

加害者を名指しで特定しないというのは非常に楽なことで、公安や創価と闘う必要もなく、訴訟問題に発展することもない。

集団ストーカーの被害者ブログは創価にやられているとするのが相当数で圧倒的に多い。事実と嘘が入り乱れているので検証が必要であるが。

あのNPOは「集団ストーカー」の被害者を病気として社会的に抹殺する創価の意を受けた法人のようにも見えるのだが本当の目的は何なのだろうか。

「創価に電磁波攻撃をうけている」など

は、自作自演の場合や対立団体の思惑があると思っているのだが、ほとんどが隠れ創価信者の創価を守るための一種の宣伝活動の一環のような気がする。実際に電磁波攻撃があるのかないのか可能なのかどうかは私は知らないが、個人的な印象を述べると、「創価の被害を訴えるものは電磁波攻撃されているなどおかしいことをいっている「精神病」である。」とのイメージを世間的につくりあげて拡散しているのである。

目立つブログで騒げば騒ぐほど街宣活動で訴えれば訴えるほど「頭のおかしい人間に理不尽な中傷を受けている創価学会」と「創価学会の正しさ」を際立たせ世間にアピールできるというわけだ。本当に頭がおかしいのではなく、おかしいフリをしているのである。その一方で創価は別のかたちで実際に「集団ストーカー」を必ずやっているはずだ。

私は元々創価とは全く接点もないし対立関係になったこともない。隣人の創価アホが幹部を通じてかなり後ろにいる公安におそらく嘘を吹きこまれ利用されて重要で悪質な役割を担っているから話がややこやしくなっているのだ。

このアホに何を言っても無駄なのだが「イスラム原理主義者」にキリスト教を信じろと言うようなもので、幹部からの指示は絶対的であり、自らの脳で善悪を判断することはないのである。今の創価アホは2代目で初代は期間は短かったが勝部という当時の若夫婦であった。

公安はすべての団体、企業を巧みに利用してきたので創価を特別扱いしているわけではなく私の場合も協力者の一つにすぎない。創価以外の協力者は山ほどいる。

公安の対極にいるらしい右翼も左翼も公安ジャーナリストも協力者にできるので物事を単純な対立構図でみると判断を誤るのである。

基本的に「日本を守る」という立場なので、表面上は違って見えても目的が一致しているのであれば当然のことである。過激派だって本来の意図は日本を良い方向に変えるのが目的だったはずで、方法が間違っただけである。根っこが一致すればいつでも公安の協力者になれるのである。

S 機材では公安の工作のどつぼに嵌り大がかりな仕掛けに乗ってしまったのだが、転職した場合に程度の差こそあれ基本的にはどこも不当な干渉が行われ、暇人組織、税金無駄遣い部隊の公安がやる、少なくとも私 S・T に行ってきた監視・工作活動の実態は「関向」の通りである。私は職を転々と変えたがこの会社でのことが「組織的なストーカー」を説明するのにもっともわかりやすいサンプルである。

組織的なストーカーは協力者がいなければ成り立たない。公安だけでは人員的にやれることが限られるので干渉なしの単なる監視活動にすぎない。それを考えるとノ一天氣に公安に協力している「想像力の欠如した」協力者たちも実は悪質であり同罪なのである。

下請け孫請けの協力者達の中には「公安の影」に気付いていない者もいるかもしれないが同罪である。

「協力者がたとえ友人、知人であっても同様である。」

心当たりのある人は、心して協力したほうがよい。

国家権力に迎合して協力するタイプの人間は**人の本当の痛み**に生涯気付くことは**絶対にない**。自分の**立場**が最優先のことなので何を言っても時間の無駄である。

価値観も違い、要するに**同じ時間**を生きていないので理解する可能性は**ゼロ**である。

そして結局**断絶**をするしかなく、たとえ私が**惨めに**野垂れ死にしても「**自分の**人生を生きる」のがそれぞれにとっても意義のある**最良**の生き方なのである。

私は30年以上組織的なストーカーのターゲットにされ協力者達の晒し者にされてきた。**その間私は犯罪的な行為も言動も後ろ指さされるようなこともした事は一度もない**。

問題は極めてシンプルである。私こと札幌市**北区在住**のS・Tに行われている執拗な組織的なストーカー行為が「**事実**」かどうか。

公安警察や公安調査庁の公的機関が「危険人物」として**デッチ上げて**協力者たちに名指しし、調査・監視と称して**悪質な干渉**を現在の法律では罰する事の出来ないのをいいことに「組織的なストーカー行為」を**のべ何万回**と繰り返し結果として**多額の税金を無駄**に使ってきたことが日本では許されることなのか。

私の告発は極めてシンプルである。「組織的なストーカー」が**行われているか**？

公安がやれば**許されるのか**？

この2点のことを**読者の皆さん**(工作人員を除く)にもおたずねしたい。

北海道公安調査**局**と道警警備部公安課の**ヨタ者**、バカどもよく聞け。

「ほかにやるべきこと、**やらなければならないこと**が山ほどあるだろうが**!!**」

私はこの記事「**関向**」を半年前に下書きで書いていたのだがなぜかほぼ**同じ時期**に内容からみてもあえて**よこす必要もない**コメントが送られてきた。めったにない**偶然**なので紹介する。細かい解説はしない。



公安にかかれば「ウイルスバスター」等はほとんど意味をなさないだろうし、情報を盗る**公安流**の手段はたくさんあるはずだ。私のブログではなぜか**創価の работник**がパスワードを盗んで侵入し荒らしまわっている。なぜ創価とわかるのか。両手を前に突き出した**ゾンビ**の群れのような一定の**傾向**でわかるのである。

遠隔操作によりリアルタイムで「ワード」が盗られている**気配**さえするのだが、『このことを書けば「被害妄想」と思われるだろうな。』とか考えて少し躊躇するがあえてとりあげることにした。

組織的なストーカーにおいては「**本物の被害者**」がおかれている状況は「馬鹿」と「**真実**」が紙一重の状態なのである。「馬鹿」を「**病気**」と置き換えてもよい。

何でも自分と関連づけるのが**被害妄想**等の病気の特徴でもあり「集団ストーカー、組織的なストーカーの被害を口にする者」は病気であるかのように思わせるのも**加害者側の思惑**でもあるのだ。判断はあなたにまかせる。

稲葉事件の紹介記事がひと段落したころ、公安警察ではなく**公安調査庁**を示唆するコメントが立て続けに**数件**きたのだがこれもそのひとつだ。

攪乱工作なのか事実を述べたのかは不明だが、ネット上で**公安調査庁**を集団ストーカーの加害者としているブログは一つもないはずで(このことが**予断の原因**にもなるのだが)、このコメントでもいきなり「**公安調査庁**」であり、そして「**関内**」である。かなり意図的な示唆と**グウゼン**である。

「**関向**」の件はヨタ者集団公安による組織的なストーカーの**本当の「手口」「やりくち**」のわかりやすい**一例**である。

今回私の体験を公開したことで公安のヨタ者たちは、都合の悪い部分では**口裏合わせ**を徹底させ**緘口令**を敷き**アリバイ**工作にも余念がないはずである。当時の鍵を握る関係者がどれほどいるかわからないが。

公安が主導する**大げさにでっちあげた**組織的なストーカーとは**そういうもの**である。

**陰に隠れて**「人権蹂躪や犯罪をやっている**アンタ ッチャブルの国家権力**」の悪行を一人で**証明**しようとするのだから、場合によっては客観性に欠け、思いこみによる間違いがあるかもしれない。



不要官庁といわれ公安部に比べて予算や人員の規模も能力もはるかに下と見られている公安調査庁が主導しているならば盲点を突かれたようなおもしろい展開である。

私の場合地方の小さな学校から始まっているのでその可能性は大である。しかしどちらにしてもあるいは両方が関与しているにしても組織的なストーカーの加害主体は「公安」という「ヨタ者機関」なのである。

私、札幌市北区在住S・Tのことを知っている知人や私の言っている事に懐疑的な人たちも「席向い」の猿芝居や私の経験談により「組織的なストーカー」とは何なのか、パズルが少しは解けるだろう。

そして実際に私のまわりで何が行われているかを必ずや理解し納得するはずである。



## 18. (最後に) [警察の組織犯罪]

稲葉氏は「恥さらし」の中で渡辺司の死について言及している。『「道警の暗部を握っていたため、組織に殺された」と言う人もいますが、拘置所や警察の人間が被疑者を殺すことはさすがに考えられません。』私もそう思う。

「拘置所職員や警察官が直接手を下すわけがない。それこそ考えられない話である。」やるとしたら別の筋からもっと巧妙にやるだろう。しかしこれ以上の話は前に書いたとおりの可能性の問題であり単なる憶測と想像でしかない。

しかし私の頭の中では「真昼間からシャブ中でブッ飛んだ目をし、婦人警官と銃対課の女性刑事を愛人にした道警の現役警部が北2条西7丁目にそびえ立つ巨大な北海道警察本部に堂々と出入りしている」光景よりも、「密室で抵抗できない状態の渡辺司が下請けの

ヤクザ者に口の中に靴下を詰め込まれ二人がかりで首を締めあげられている」光景のほう  
が私には十分に考えられることである。

渡辺司の仮名の名前が「真」になっていたのには苦笑したが、アドバイザー?もいろいろ  
考えるものである。

私が「あえて」稲葉事件を取りあげ拙文ながら要点部分を皆さんに紹介しているのは、  
皮肉にもまさに稲葉氏本人がいうところの『国家権力を担う警察の人間が、さすがに考え  
られない』ことを組織的に行った最もわかりやすいケースだからである。

公安が国家権力を最大限に利用し犯罪や悪質な人権蹂躪も行う秘密機関であるという指  
摘を信じる人はほとんどいない。

公安警察の広報担当ジャーナリスト達も「公安警察の教科書」は書くのだが、たとえば  
週刊誌のように批判的、否定的な立場で切り込むことは絶対にはないのである。

公安に関しては世の中のしくみとしてこうなっている(アンタッチャブル)のか ?  
ほとんどの情報が開示されず裏で何をやっているかわからない秘密機関なのにすべてが適切で  
正しい事をやっているようである。そしてそのことを真剣に指摘するジャーナリストもまた皆  
無である。

公安(公安警察や公安調査庁)が被害者に  
「・・・な危険人物」のレッテルを貼り、協  
力させるのに都合のいいもっともらしい理由を  
つけて「協力者」に「偶然を装った」ストーカ  
ー行為をさせているなどとは誰も信じないだろ  
う。

もちろん、公安が私に対してのようなことだ  
けをしているわけではない。

しかし、協力者に組織的なストーカー行為を  
させているのも厳然とした事実である。

私自身も「まさか公安が」の思いで協力者達の  
晒し者になりながら今まで生きてきたのであ  
る。



「警察組織」を信じて疑わない人々は、「警察が正義を実現する執行機関」という漠然とした先入観を持ち、警察を頭から信じ込んでいる。

直接に私の告発と関連があるわけでもないが、「稲葉事件」をヒントにして公安警察や公安調査庁の強大な公的権力を利用した、組織としての犯罪性や私達の知り得ない「裏の顔」をもっと知るべきであり、固定観念を排除してその可能性を今一度考えてみるべきである。

## 『悪魔には悪魔がないと思わせる知恵がある』

### 「北海道警察の冷たい夏」より



「政権を揺さぶってる」とか「存在意義を示そうとしている」とかこの簡単な記事からも公安警察がどういう機関なのかが明らかである。公安警察とは工作機関でもあるのだ。

公安の場合の「リーク報道」とは情報操作の一種なのだと思うのだが

「政治への介入」、「公安部の論理」どちらも正しい推察である。

公安の活動には裏の意図があると考えたほうが正しい。情報を巧妙に操るので裏を読み取るのは簡単ではないが。

特に政治的なことに関しては表向き警察機関の一組織にすぎない公安が裏でこんなことまででき、やっているのかと思う人がほとんどだろう。しかし私から見れば、この二つも「公安情報の漏洩事件」すらもみな表舞台の話である。

私の“想像”ではあるが本当の「ヤバイ話」の詳細が国民に広く知られる事態になれば「公安を解体しろ」とか「警察を一から再編成しろ」ということになるので、裏での巧妙

で悪質な違法行為、犯罪行為、**人権蹂躪活動**などの実態が表面化して世の中に知られることはないのである。

現状の体制(情報**非開示**の**秘密警察**)が公安にとってはもっとも都合よく「何でもできる」ので現在の組織体制をぶち壊すような、尻尾を掴まれるような証拠を残したり(ビラ撒き事件のようなパフォーマンスもある。)、あるいは自分達の組織の消滅につながりかねない警察**改革**は絶対に行われなければならないはずである。

ほとんどの公安ジャーナリストたちも**公安の代弁者**や**広報担当者**になっているので、本気で公安批判をしたり公安警察のどこが問題なのか本気で検証し指摘することもない。

ましてや「公安警察の**解散**」などとんでもない話なのである。

公安の批判を本や映画で展開している**らしい**一部の人も、本物の弾圧があった時代**以降**の公安と共産党の関係のようにもしかしたら公安のガス抜きの役割を担い、実は公安の組織**存続**に手を貸し協力しているのかもしれない。

そうでなければ公安警察や公安調査庁の**改革**や**解散**がとっくに着手されているはずである。もっともその前に公安の捜査活動?の実態の**全面**情報公開が先であるが。

ジャーナリストや評論家に限らずメディアやマスコミ、**大企業はすべて**、ほとんどの中小企業も皆「**公安警察**や**公安調査庁の味方**」なので現状でもこの先もまた**公安による**組織的なストーカー問題が解決に向けて**進展**することはなく、これとは別に公安の悪事も**開示**されることもほぼ**不可能**だろう。

道警の稲葉事件のケースでは二人の人間が「死に至る」ように仕向けられ、渡辺の変死については不審な点が多い。





「殺人の究極の完全犯罪の方法は対象者を**巧妙**に自殺に追い込むことである。」

渡辺の死がこれにあてはまるのかどうか、あるいは単純に**大胆**に「**他殺**」なのか?想像の域を出ない。

**捜査協力者**である渡辺のいわば**内部**告発により始まった史上最悪の警察犯罪であり公の場での「証言」を最も恐れていたのは「道警」であり「**警察庁**」であり「公安部」にも大きな影響があったはずである。

幹旋で警察天下りを受入れた就職人気ランク常連企業	
東京建物	日本電気
セコム	松下電器産業
大和証券	ライオン
野村証券	双日
三井住友銀行	日本マクドナルド
三菱UFJ証券	伊勢丹
日本生命保険相互会社	セブン&アイ・ホールディングス
三井住友海上火災保険	JTB首都圏
東京ガス	JTB法人東京
東京電力	博報堂
ソフトバンクモバイル	読売新聞東京本社
日本電気	アクセンチュア

稲葉が**捏造**事件やヤラセ捜査の**道警の組織的な関与**を語り出したのは、翌年2月13日の第3回公判からで、実に渡辺の変死後**6カ月も後**のことである。

渡辺が拘置所の独房で**恐怖の日々**を過ごしていた時に、道警や警察庁も又9月11日(死後**11月に延期**された)の第一回公判まで**戦々恐々の日々**を過ごすはずであった。

渡辺の**存在**により、**警察組織全体**に間違いなく前代未聞の悪影響を及ぼす**証言**になることだけはたしかであった。

当時のこのような逼迫した**状況**のなかで、警察組織に**自爆テロ**を企てた渡辺司という「**悪党**」でもあるこの**超危険人物**を**公安部**はどのように見ていたのだろうか。